別紙様式２

平成 25 年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市 町 村 名　枚方市
実践研究校名　磯島小学校

【公開授業】公 開 日：平成２５年１２月１３日
対象学年：第６学年

（教材・教科書名） Hi, friends! ２ （単元名） Lesson４　Turn right. 「道案内をしよう」	（本時の指導の目標） ・道を尋ねたり道案内したりすることができるようにする。 ・進んでコミュニケーションを取り、道案内ゲームでグループごとにミッションリストに書いてある目的地まで連れて行くことができるようにする。

（本時の授業において工夫した点）
・道案内ゲームをするにあたって、建物の絵やミッションカードを子ども達自身に作らせることで、意欲的で活気のある活動となった。
・道案内の活動をグループ単位で取り組ませ、道案内する側と道を尋ねる側が各二人以上となるように分けた結果、仲間と相談したり、声を揃えて英語で道を案内したり尋ねたりすることにつながり、安心して大きな声で道案内の活動をすることができた。
・HRT、JTE、JHET の役割分担を明確にしたことで、スムーズに授業を展開することができた。

（授業を終えた教員の感想）
・子ども達が楽しく大きな声を出して、積極的に道案内の活動に取り組めていたのが良かった。
・今回は子ども達が、仲間と一緒に楽しく安心して英語でのコミュニケーションを取ることを優先に考えたため、道案内の際の会話のシチュエーションが、本来のコミュニケーションの形と合っていないと感じる部分があった。今後はもっと実際の会話のシチュエーションに即した言語活動となるように模索していきたい。
・準備が大掛かりになってしまったので、無理なく取り組めるような指導計画を考えていきたい。

【研究協議会】

(テーマ) これからの小学校外国語活動について：教科化を視野に入れて	(指導・助言者) 京都教育大学　教授 泉　惠美子　氏

（研究協議会で出された意見）
・子ども達が活動中に、大きな声で堂々と英語で話すことができていた。授業者の役割分担が明確で、英語で指示等をする際に、効果的に日本語によるサポートを入れるこ

とができていた。
・子ども達がハキハキと発話できていた。
・子ども達が意欲的に授業に取り組めていて、表情が生き生きとしていた。
・子ども達が自分達で活動に使う建物の絵やミッションを書いたことが意欲的に参加する姿勢につながっていた。
・今回の道案内の活動として設定したシチュエーションでは、不自然な英語による活動となってしまっていたので、実際の生活の場面で使える英語となるように、今後の工夫・改善が求められる。

（まとめ）
１．子ども達が自分達で作ったり、関わったりしたものを使った活動を行うことは、英語に苦手意識をもっている子どもにとっても、意欲的に授業に参加しやすくなるため効果的である。
２．HRT、JTE、JHET の役割分担を明確にし、それぞれの役割が効果的に機能する授業計画を考えることが大切である。
３．実際の会話に合った自然な形での活動方法や、準備期間に無理のない授業計画をたてる必要がある。